

事業所名

放課後等デイサービス プラス

支援プログラム

作成日

6年

9月

11日

法人（事業所）理念		インクルージョンの最適化と自立支援を目指す。				
支援方針		放課後等デイサービスとして、小学1年生から18歳に至るまでの過程において、それぞれのステージごとに役割や行動を求め、自立した人物として成長を促し、育成します。				
営業時間		10時	0分	19時	0分	送迎実施の有無 あり
支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	来所持の体温測定、手洗いの実施、おやつや、食事を作ったりする食育、また製作等を通して、創造力を高め、出来ることを増やして、自信につなげて児童の日常生活の質を高めます。また、出来ることが増えることで行動範囲が広がり、心に余裕をもたらすよう支援しています。				
	運動・感覚	感覚統合機器の活用や、ボルダリング等を活用して、体幹を鍛え、また理学療法士による定期的な指導で、体のチェックをして、各児童の成長に合わせたプログラムを構築して、健康で健やかな成長を支援しています。				
	認知・行動	約70mの指導室には感覚統合機器が多くあり、児童が「感覚遊び」として機器の使い方を工夫したり、想像力を膨らませて楽しんでいます。また、室内を暗くして大きな壁面に映像を映し、映像を楽しむことで、本来、子供達が持っている想像力を掻き立てるようになっています。そこから、豊かな感性を膨らますような支援に取り組んでいます。				
	言語 コミュニケーション	挨拶や言葉遊び、また、終わりの会で、楽しかったこと等を発表してもらい、1日、1回はたくさんの人の前で喋ると言う事を心掛けています。喋ることで、客観的に自身を振り返り、また他の児童に認めてもらう事で、高揚感や自己肯定感を高めるよう支援しています。				
	人間関係 社会性	集団行動でお互いの距離を測りながら、また楽しみ、外出イベントを実施し、いろいろな体験をして、自身の役割（高学年の児童が低学年の児童のお世話をする等）を認識したり、集団行動による、してはいけない事等を自然と理解できるよう支援しています。				
家族支援		保護者との電話等による相談や、延長支援の実施。また、ご利用者様の利用されている相談支援事業所や他の放課後等デイサービスとのミーティングの実施などに取り組んでいます。			移行支援	高学年はリーダーとしての役割を与えて、小集団で意見をまとめたり、下級生のお世話をしてもらっています。また、一部の高学年の児童には、送迎ではなく、自主通園してもらい、自立に向けて準備しています。
地域支援・地域連携		ご利用者様の利用されている相談支援事業所や他の放課後等デイサービスとのミーティングの実施などに取り組んでおり、ご利用の児童を多角的に見つめ直し、支援内容の編纂に取り組んでいます。			職員の質の向上	毎日、午前中は前日ご利用の児童のモニタリングに充てており、支援の見直しや確認を実施しています。また、資格等を取得しようとする職員にはスケジュール調整や資金等を提供しています。
主な行事等		毎月のお誕生日会、感覚統合の日（毎月）、学校休業日のミニイベント（学校休業日は毎日）、公園遊び、お出掛けイベント、図書館訪問、おやつやお昼ごはん作り、母の日工作、七夕、敬老の日、ハロウィンパーティー、クリスマスパーティー、お正月、夏祭り等。				